

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 原田 邦昭

令和 2 年 7 月発行

創刊 平成 5 年 7 月 16 日



群馬県環境アドバイザーの登録状況

(令和 2 年 7 月 20 日現在)

第 11 期(登録期間:平成 30 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)の登録者数は、新規登録者を含め、男性 186 名、女性 97 名、合計 283 名です。

自然環境部会 124 名 温暖化・エネルギー部会 95 名、ごみ部会 86 名、広報委員会 27 名が登録し活動されています。

群馬県環境情報サイトに、環境アドバイザーのページ開設

群馬県環境情報サイト
ECOぐんま

<http://www.ecogunma.jp/>

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、下記 URL へ

<http://www.ecogunma.jp/?p=3058>

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。

<http://www.gccca.jp/volunteer/>

表紙写真 雑草の中に咲くネジバナ

初夏に咲くネジバナは可憐で人気のある植物です。この為、多くの方が鉢にとって栽培しようとはしますが、なぜかうまく育たしません。ネジバナはランの仲間で、共生菌や他の植物の助けを必要とし、雑草の中で元気に育ちます。この小さな植物は私たちに生物の多様性の意義を静かに語っているように思います。

(撮影・文 井上)

目次

- P2 環境政策課
- P3 副代表 宗 義彦・沼田:角田 和男
- P4 温暖化・エネルギー部会、ごみ部会
- P5 自然環境部会、広報副委員長 酒井 義明
- P6 三木 恵子、広報副委員長 小峯 幸子
- P7 広報委員会 高寺 史佳
- P8 太田:西村 豊、編集後記 小峯 幸子

「動く環境教室」の動画を公開します！

群馬県環境森林部環境政策課

令和2年4月24日、県庁32階に、群馬県動画・放送スタジオ「tsulunos」(ツルノス)がオープンしました。県の各課が様々な動画を配信していきます。環境政策課では、動く環境教室の紹介動画を配信する予定です。また気候変動対策課からは、令和2年7月1日からレジ袋有料化が始まったことに伴いマイバック推進の動画を配信されています。その他にもYou Tubeチャンネル「tsulunos」では日々のアドバイザー活動に役立つような動画が配信されていますので、是非ご覧下さい！

★配信予定日★

令和2年7月中を予定しています

★配信内容★

「動く環境教室」7テーマ

- ・「家庭から出る水の汚れを調べてみよう」(水の授業)
- ・「川や池の水質を調べてみよう」(【高学年】水の授業)
- ・自動車から出るガスの汚れを調べてみよう(大気の授業)
- ・ごみは大切な資源(ごみの授業)
- ・ごみのへらし方とリサイクル(【高学年】ごみの授業)
- ・省エネ電球で地球温暖化について考えてみよう(温暖化の授業)
- ・発電から地球温暖化について調べてみよう(【高学年】温暖化の授業)



★配信チャンネル★

You Tube チャンネル「tsulunos」(<https://www.youtube.com/channel/UCct7gs2xFNXMEEVjCdFaSZw>)



【説明の様子】



【実験も紹介しています】

グリーンニュース

副代表 宗 義彦

中国に端を発した新型コロナウイルスは瞬く間に全世界に感染拡大して、私たちの生活様式は一変してきました。外出自粛、マスクの装着、休業要請、多くの人が集まる行事は全て自粛など制約の多い3ヶ月間でした。学校も授業ができず、新入学を楽しみにしていた学童生徒も自宅待機を余儀無くされ、私たちが今までに経験したことが無い状況でした。コロナ騒ぎも一時より落ち着いてきてはいますが、第2波・第3波が秋には来ると予測する人もいます。専門家によれば、効果的治療法が見つかり、ワクチンが広く行き渡るようになるのは2021年かそれ以降になると言われています。

皆様はこの3ヶ月の間、会議・その他活動は自粛してステイホームをされていた事と思います。中にはいち早く政府推奨のテレワークでお互いに意見交換、会議等行っていた方もいらしたようですが、その結果はどのようなものであったかお聞きできればと思います。もしよければ今後採り入れてみたいものですね。

7月8月は猛暑が予想されます。たとえ政府が規制を緩和したとしても、急に無謀で自信過剰な行動を取らず、状況を注意深く見守り、気を緩めず、緊張感を持って過ごす事が大切でしょう。この夏は感染症や熱中症の2つに気を配り、油断せず、日常生活を規則正しく、暴飲暴食を避け、早寝早起き、適宜な運動を行い、晴耕雨読の生活をたまにはしてみるのもいかがでしょうか。

.....

やってみよう！！“冷蔵庫の整理整頓”

副代表 角田 和男

沼田市では、6月の環境月間に際し、広報ぬまた6月号で冷蔵庫の整理整頓で食品ロスを減らそうと、トップページで「食品ロス」を特集しました。

食品ロスとはまだ食べられるのに廃棄される食品で、日本では年間2,550万トンの食品廃棄物などが出され、このうち食品ロスは612万トンです。

冷蔵庫の扉を開けた瞬間に、どこに何がどのくらいしまっているかが分かれば、すぐに取り出すことができます。ということで、整理収納アドバイザーの資格を有する柘原久仁子環境アドバイザーは、冷蔵庫の整理整頓について、基本の3つのポイントや食品や食材などを無駄なく使い切り、食べ切るための冷蔵庫内の収納ポイントを紹介しました。また、庫内のトレイは100円ショップなどのケースやトレイで収納スペースを区切ると、食品や食材の出し入れがとても楽になります。ちょっとしたひと工夫で、冷蔵庫内の整理整頓を楽しみませんか、と市民に呼びかけました。

基本の3つのポイント

- 1 庫内の中身を全部出して、期限切れや傷んだ食品などを処分する。
- 2 食品は種類ごとに分ける。
- 3 置く場所を決める。場所が定着すると散らからない。

冷蔵庫内収納ポイント

冷蔵庫編	・利用回数や期限を考えて置く ・賞味期限が迫ったらひとまとめ ・わさびはチューブホルダー	・同じ食品をひとまとめに ・朝食セットが便利ひとまとめに ・マヨネーズ・ケチャップ立て
野菜室・冷凍庫編	・立て置き収納を	
常温庫編	・ケース・牛乳パックで仕分け・紙袋などで仕分け収納	

(参照「広報ぬまた6月号」)

温暖化・エネルギー部会「オンライン会議をやってみました」

温暖化・エネルギー部会長 奈賀 由香子

定例会を予定していた5月16日は会議室が閉鎖との連絡を受け、部会では想定通りでしたので、スカイプを使ったオンライン会議を開催しました。

温暖化・エネルギー部会ではメーリングリスト（ML）を作成しておりますので、4月下旬に「コロナで集まれない可能性もあるので、オンライン会議の準備をしてはどうか」という意見がMLで寄せられ、すぐにMLでやりとりが始まりました。金子副部会長が中心となり、使いやすいツールとしてスカイプでの会議を設定し、各自で練習してみようということになりました。指定されたスカイプの会議室に入るだけなのですが、「音が入らない」「画像がない」「つながらない」などのトラブルに対し、金子さんから丁寧に指導をしていただき心の準備をしていました。なので、会議室使用不可との連絡が来ても会議を中止にすることなく、当日は8名が参加できました。カメラやマイクがないパソコンでもチャット（書き込み）で意見を出せますので、自宅にwi-fi環境が整っている方には使いやすいと思います。オンラインで気をつけなければいけないのは、自分のマイクが拾っている音（テレビや家族の声）が皆さんに聞こえてしまうので、発言者以外はマイクをオフにするのがいいですね。

使ってみると大変便利で良いのですが、ネット環境にない方との交流ができません。今回は事前案内をしましたので電話で意見をもらい、結果については議事録を見てもらう、ということしかできないのですが、それ以上のことはやはり難しいのか、そこが今後の課題です。

.....

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）

ごみ部会長 山田 一郎

全世界で感染者約1,000万人、死者約50万人、その内、日本では感染者約2万人、死者約1,000人弱が出ています（6月28日現在）。100年に1度（？）の伝染病による人類の危機とも言われる新型コロナウイルス禍の中で、国境や都市の封鎖、多くの工場の操業停止、一部サービス業の休業要請、テレワーク、オンライン、不要不急の外出の自粛などがありました。パンデミックは続行中ですが、既に日本や世界の経済が大きな打撃をうけ、多くの人が犠牲となりました。東日本大震災もそうでしたが、今回も、忘れえぬ悲しい災厄となっています。



一時的にせよ地球を包む大気はきれいになったような気がします。皮肉にも、これも新型コロナウイルスのおかげなのではないでしょうか。このような災厄でもない私たちの考えや生活様式は変わることが難しいのかも知れません。願わくはこの災厄を教訓として、地球の平和と緑豊かな環境が少しでも永く保たれるように祈るばかりです。

しかし、祈るだけでは何も変わらないので、私たちは自分たちにできることを、コツコツと積み重ねなければなりません。環境活動は決して不要不急ではなく、例えばごみの減量は、誰にでもできる地球温暖化防止活動と言えるのではないのでしょうか。また7月から始まったレジ袋有料化の義務付けは、スーパーだけではなく全小売業に適用されるものです。海洋プラスチック廃棄物が問題となっている中で、レジ袋など使い捨てプラスチック製品を減らすことは喫緊の課題です。私たちが長年に渡り取り組んできた「レジ袋有料化」や「環境にやさしい買い物スタイル」運動の成果でもあると思います。

自然環境部会たより 2020_6

自然環境部会長 田中 和夫

「新型コロナウイルス感染症」予防のため例会は自粛していましたが、「密閉」のない屋外活動の「高山村共有林手入れ」は大丈夫と考えて6月6日（土）に実施しました。珍しく？10名（+組合長さん）と大勢の方が参加され、刈払機も6台以上と機動力もあり見違えるほどきれいになりました。また「オオブタクサ」の苗の引き抜きも行い、100本近くを除去できました。

現場はぐんま天文台そばの中山峠から北へ1km下った左側です。

◎次回は8月1日（土）7時半集合をお願いします。

暑い時期なので早めに始め短時間で済まそうと思います。

主な作業は葛の処分、オオブタクサの除去が中心になると思いますのでよろしくをお願いします。標高700mほどの高地なので朝は涼しいです。

秋には栗拾いを兼ねた軽作業を予定しています。現場から2kmほど下った場所に「道の駅中山盆地」があり、地産品販売や食堂、温泉もあります。

.....

「高山村での林地管理作業」に参加しました

広報委員会 酒井 義明

令和2年6月6日（土）9:30～11:00に環境アドバイザー連絡協議会自然環境部会の高山村での林地管理作業に参加しました。



写真1 刈払機による下草刈り

今年の春はコロナウィルスの影響で、多くの環境活動を自粛せざるを得ない状況のなか、今回の作業は「待っていました！」という声が聞こえてきそうなタイミングで、参加者は通常時の約2倍の10名となりました。多くの参加者との作業でしたが、風通しの良い野外ということ、刈払機等との接触事故防止のため適度な間隔を確保しながらの作業であることから、三密にならない環境で各々が楽しく作業をすることができました。

自然環境部会では、高山村の林地を利用してフィールドワーク実践の場として足かけ10年にわたって下草刈りや枝払い、外来種

除去を行ってきました。秋に収穫されるヤマクリも楽しみのひとつです。

ある土地で、ある特定の生態系サービスを継続的に受けようとしたときには、植生の遷移をサービスの目的に合わせ止めておく必要があります。クリの収穫がサービスの目的であれば日当りを良くして陽樹林の状態を維持するために、下草狩りや、ツル植物の除去等の管理が必要になります。森林の管理には、植生の成長・遷移を予測し目指す森林をイメージしながらの順応的な管理が大切なことを学びました。

自然の中で汗を掻くことが好きな方、里山に興味のある方、クリが食べたい方、多くの方の参加をお待ちしております。



写真2 参加者の皆さん

『ウイルス感染予防と温暖化防止』

伊勢崎 三木 恵子

今年も半年が過ぎました。半年前に、まさか世界が新型コロナウイルス感染により大きく変わってしまうとは予測できませんでした。予約していた旅行もキャンセルし、イベントなどは全て中止になりました。

おうち時間中は家にあった端切れを使ってマスクを作ったり、Zoom レッスン×カタフェス（片づけフェスティバル）に参加して洋服の整理をして少しスッキリ。



Zoom
Lesson
×
カタフェス

家族で片づけよう大作戦!

40分でもこんなに整理できます



緊急事態宣言が解除されても、以前と同じ生活はできません。

7月1日からレジ袋が有料化になりマイバックの推進にはなりますが、テイクアウトやデリバリー商品のプラスチック容器が多くなっています。スーパーではバラ売りではなくトレイを使いフィルムで覆う、または袋詰めになっています。

公共交通より自家用車での移動が感染防止になる。でも、リモートが進めば移動をしなくても良いですね。

今後は新しいライフスタイルでの感染予防と地球温暖化防止の両方の問題の関係を考えて、見直し行動しなければならないと思います。

.....

コロナ禍からのボランティア活動

広報委員会 小峯 幸子

群馬県環境アドバイザーの活動は3月以来、幹事会・部会や各地区会の判断や群馬県発信の「社会経済活動再開に向けたガイドライン」に則って、自粛や中止を余儀なくされてきました。環境アドバイザーに限らず、あるボランティアセンターの方も、様々なボランティアに関わる方々が活動する機会を失っていると、残念がられていました。ボランティア活動の多くはやはり、個人の活動のみならずチームで取り組むことで盛り上がりや達成感を得ることができるものかとお話ししてきました。

これまでにグリーンニュースで紹介された高崎市の環境フェア参加や「ぐんまマラソン」のリユース食器利用など、様々なイベントや新年度の企画が中止となってしまいましたが、市町村主催のセミナーやイベントも徐々に再開されてきているようです。‘延期’と明記されていない恒例企画は、まだ期待できるかもしれません。コロナ禍で少し狭まってしまったアンテナをもう一度伸ばして、活動の場を広げていきたいですね。

ECO群馬↓やグリーンニュースを、情報収集と情報発信の場にぜひお役立てください。

(グリーンニュースへの寄稿は、最終ページ下段をご参照ください。)

環境を考える

広報委員 高寺 史佳

環境とは何でしょうか、先ずこれを考えてみます。“環境とは自分を取り巻く相互作用を及ぼし合う全ての物事である”と自分では考えています。相互作用を及ぼしあう物事とは全ての生物、鉱物、自然現象、人の心の環境まであります。エコカレッジ初回の趣旨の前文にありますように「今日の環境問題の多くは、私達の生活や社会活動そのものに原因があります」と書いています。

物質経済主導（コスト最優先）の西洋文明社会が今日のグローバル化した世界を作ってきました。今回の新型コロナウイルスでは工場の生産、住宅建設までもが止まり、マスク一枚も手に入らなくなりました、食糧の輸出まで止めた国まであります。全ての活動が停止となった中で我々が忘れかけている日本人の原点である持続可能な生物多様性循環型社会の“自然との調和、人との調和の心と生き方”を思い起こさせます。

西洋文明社会は破綻しようとしています。このままでは地球は今世紀末には100億になろうとする人口を養えません。お金が有っても食糧が手に入らない時が来るかもしれません。各自非常時への食糧備蓄と自作で自給率を上げなければなりません。例としては1991年のソ連崩壊にともなうキューバの深刻な経済危機、アメリカの徹底的な経済封鎖が追い打ちをかけ、ソ連は未曾有の経済崩壊と食料危機に直面しました。この様な状況の中でソ連は、ソ連式の現代農法の大型機械を使用し、化学肥料、農薬を使った大規模単作農業から牛を使い、ミミズを飼い堆肥を作り有機栽培による過去からの農法で都市のすべての空き地までも使い自給自足の「グリーン革命」に転換しました、これは多くの人手がかかり効率が悪い現代農法以前に戻したもので、一人の餓死者を出さずに自給自足農業に転換しました。

我々は今までの生活や社会活動を見直し生き方を変える必要に迫られています。今ある物は預かり者であること、有限な資源を使い切ってはなりません。海外との交流を絶った江戸時代の持続可能な地産地消、省エネ、リサイクル社会に学び生活の質の見直し（質素な生活）が必要です、悪化した環境を改善し次世代に引き継がなければなりません。また、自分自身の環境保全ではなく改善をしなければなりません。一人一人が意識を変えて行動することが社会を変えることになります。

私の体験では一人一人が生き方を変え行動することで世の中がより良く変わっていきました。1960年代車の排気ガス公害、1990年代の農薬、化学肥料の多用、工場、家庭排水による河川の環境汚染、2011年の東日本大震災の計画停電で一般家庭が無関心であった節電に真剣に取り組んだ結果、原発が停止しても大規模停電はなくなり、自然エネルギーの活用へと進んでいます。生活や社会活動の改善のために今自分がしていること、これから何をするのかを問われます。

.....

太田市で繁殖する特定外来植物「オオフサモ」

太田市 西村 豊

最近気候変動の影響が様々な外来種が繁殖していますが当地で特に問題になっている特定外来生物の「オオフサモ」の現状について紹介します。

学名：「Myriophyllum aquaticum」 原産地は南アメリカで日本への侵入経路は1920年頃ドイツ人が雌株を観賞用として持参し、兵庫県須磨寺の池で野生化したと考えられています。日本では本来生息していない植物ですが観賞用の水草として流通し、何らかの要因で定着したと考えられます。栄養繁殖が旺盛で地下茎で繁殖し、太田市でも2008年頃から確認されています。湖沼・川・水路などに生育し根茎で越冬しますが当地は湧き水が多く冬でも川の水温が高いため地上部も枯死することなく越冬し3月頃から生育を始めます。

オオフサモは旺盛に繁茂することから在来生物と競合し駆逐する恐れや水路の流れを妨げ大雨が降ったときに水路から水があふれ農業被害が発生する恐れもあります。太田市では現在大川調整池と谷地池の池沼や大川の上流部（水源が湧水）で大規模に繁殖しています。大川に繁殖する物が下流の石田川でも繁殖していることが確認出来て、下流の利根川まで繁殖地が拡大する恐れもあります。太田市では現在大川調整池と谷地池の池沼や大川の上

流部（水源が湧水）で大規模に繁殖しています。大川に繁殖する物が下流の石田川でも繁殖していることが確認出来ていて、下流の利根川まで繁殖地が拡大する恐れもあります。小規模の場合は地元の方と防除活動を行っていますが完全に駆除することは難しく毎年2回作業を行っています。河川や湖沼の場合専門業者でないと作業は出来ず土木事務所や太田市に要請していますが予算の都合か手が付けられていません。また除草や改修工事でも流出防止の対策を行わないで実施し下流に流出してしまっただけではありませんので、地道な啓発活動が必要かと思えます。



写真1 大川調整池の水面を覆ってしまったオオフサモ



写真2 小川での防除作業（2月）

.....

編集後記

グリーンニュース 82号が発行される頃、7月20日は「ハンバーガーの日」。ハンバーガーを食べると環境破壊を招く、数年前にこんな記事を読んでちょっと衝撃を受けたことを思い出しました。

揚げ物やパンズに使用されるパーム油の原料であるアブラヤシ栽培のために熱帯雨林が開墾され、ハンバーガーの包装紙の原料となるバージンパルプのために起きる森林破壊。パテに使われる牛肉には、畜産関連分野における温暖化ガス排出、フィッシュバーガーのスケソウダラには水産資源の枯渇、これらの食材調達に関わるフードマイレージと地産地消、個別包装やストローなどゴミ問題・・・手軽に食べられるハンバーガーに、こんなにもスケールの大きい環境問題があったかと驚きましたし、小学生から大学生まで、環境学習に活用されるのももっともだと思います。

近頃の私は、世代なのでしょう、ハンバーガーショップよりコンビニに訪れる機会が圧倒的に多くなってきました。コンビニのレジ袋有料化は、これまでスーパーで買ったものを袋詰めすることの無かった多くの男性にも、エコバッグの使い方を考えさせているようです。ポリ袋有料化初日、会社の同僚は「コンビニでどうやってエコバッグを使えば良いか分からない(?)」と呟いていました。コンビニでもらうポリ袋はそのままゴミ袋の役割を担う訳で、エコバッグにはその役割が担えないと。

今でこそハンバーガーの容器が路上に捨てられている様は見かけなくなりましたが、今はあちこちに使い捨てのマスクが落ちています。今の生活と環境問題。身近な生活環境から地球環境まで、いつもどこかで紐づけて考えていけたらと思うこの頃です。

広報委員会 小峯 幸子

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。各号のレイアウトは2月、4月、8月、11月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 登坂

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail:tosaka-hitoshi@pref.gunma.lg.jp